

タイトル「VIRTUAL NIPPON COLOSSEUM」

<解説>

AR アニメーション。

緑の芝の競技場。真ん中に座布団を置いた高座(こうざ)のシルエット。

右手から袴をつけた男性のシルエットが歩いてくる。

高座の後ろまで来ると、上がって座布団に正座する。

右手の扇子を膝横に置き、お辞儀。

シルエットがカラフルに変わり、ぼわっと色付きの落語家が立体的に現れる。

落語家役は男性ブランコ浦井のりひろ。メガネをかけ、着物に袴姿。

高座の緋毛氈も色が付く。

<落語家>

えー、AR つまりは拡張現実の落語家でございます。

えー、VIRTUAL NIPPON COLOSSEUM (バーチャル ニッポン コロシウム) ということで、お付き合いいただければと思います。

メタなんて言葉が取り沙汰されて、猫も杓子もメタバースってことになってしまいました
が、厳密にいうとメタバースと拡張現実は少し異なる概念なのでございます。

拡張現実を生きる私たちから見たら、そちらの現実はなかなか厄介なものでございますな。
のっぴきならない厄災に見舞われて、にっちもさっちもいなくなるということが時々
あるようでして……。

<解説>

一礼する AR の落語家。

<落語家>

「やい」

<解説>

右を向く落語家。

<落語家>

「なんだよ」

<解説>

左を向く。

<落語家が右を向いて>

「パンデミックだね」

<落語家が左を向いて>

「ああ、パンデミックだよ」

<解説>

顔の向きを変えながら演じ分ける。

<落語家>

「どうすんだよ」

「どうするって、なにが」

「集団免疫だよ、集団免疫」

「ああ、それか」

「いや、聞いたらさ、あと1人なんだって」

<解説>

一本指を立てる。

<落語家>

「あと1人、免疫を獲得できれば、なんとかなるんだって」

「なんだい、あと1人で集団免疫獲得なのかい」

「そうなんだよ。おい、誰か！誰か手を上げるやつはいないのかい！ええ？」

<解説>

ゆっくりと左手を挙げる落語家。

<落語家>

「私にやらせてもらえませんか」

「おう、なんだいあんた、買って出るってかい？」

「私は罪深い男でして。せめてもの償いに、免疫を獲得させてはいただけないでしょうか」

「え？ 罪深いって、なんかあったのかい？」

「ある時、それはそれは規模の大きなスポーツの大会がありまして。その開会式の演出を私は頼まれていたのでございます」

「ああ、あったね、そんな大会。それでどうしたのさ？」

「名誉なことでございます。ところが私はそれを断りました。私にはスネに傷がございます。それが何かはここでも申し上げられません。」

<解説>

目を閉じ、小さく首を横に振る。

<落語家>

「しかし、過去を暴かれると少々困ったことになるのです。だから私は開会式を断った」
「ああ？ まあ誰でも叩けばホコリのひとつやふたつは出るもんだけどね。償いの意識があるんなら、それでいいじゃねえか。」

「そもそも芸能と芸術を分けて考えるのが気に入らないのです。4年に一度の尺度には収まらない、いわば4千年に一度の人のお祭りにしたかった。誰もが参加できるお祭りである以上、あらゆる人間の業を肯定しなくちゃいけません。よーいどんで、入り乱れてやればいい。それが開会式にふさわしいイリュージョンです」

「ほー、そりゃあ威勢がいい」

「お話してもよろしいでしょうか」

「お、聞かせてくれるのかい」

「どんな開会式を描いていたのか、新作落語『メタ講釈』にのせてお話をさせていただきます」

<解説>

頭を下げる。

<落語家>

「よし！やってくれ」

<解説>

手を振って促す。

<落語家>

「これは私なりの人間賛歌でございます。」

<解説>

姿勢を正し、扇子を取る。

落語家の座っている高座が、芝の上を滑るようにさがって、止まる。

<落語家>

ん、んん（せき払い）

時は令和3年 真夏日 東京、世界各国注目の大運動会。某競技場にまず現れしは、太鼓を操りし者。牛の革をバチで叩けば鳴り響くはニッポンのビート、鼓童（こどう）のリズム。

<解説>

パンパンパンと音がする。

落語家が膝を叩く音。

背後の左側に、太鼓と男性のシルエットが現れる。

ぱっと色が付き、ARの3D映像になる。

横置きした長胴太鼓。

太鼓奏者は白ハチマキ、紺地にウロコ文様の染め抜きのハッピ。

<落語家>

そのリズムがやがて重なり現れしは日本の八百万の神、加勢鳥（かせどり）。

<解説>

太鼓から少し離れたところにみのむしに手足が生えたようなシルエットが現れる。

腰を落として膝から下を曲げたり、飛び跳ねたりする。

<落語家>

カッカッカーのカッカッカ。商売繁盛、火の用心。増幅してはおどろおどろと会場中を練り歩き、夜と朝のはざままでうなる、

<解説>

シルエットが変化。ARの加瀬鳥が姿を現す。

頭から膝上まで藁で覆われた男性。

顔の部分だけ四角く窓が開いている。

頭の藁はとんがり帽子のようになっている。

体に添わせた両手を肘から曲げてまっすぐにする動き。

首をぐるりと回す。

<落語家>

その姿は実に珍妙なれど、水木しげるはよだれを垂らして見つめること請け合いだ！

パンパンと音がする。

<解説>

膝を叩いて調子を取る落語家。

<落語家>

つられて現れしは二人の踊り子、アオイヤマダとまさあき平井、舞うように踊りそして踊る

ように舞い、それはどちらも同じ意味なんじゃないかという指摘に耳も貸さず、舞うように踊り続ける二人、

<解説>

落語家の前方の右にアオイヤマダ。

着物の衣装で肩を揺らす。

金髪を頭頂部でまとめ、塔のように高くのびている。頂上に一輪の花が挿してある。

前髪の生え際はピンク色。きりりとした眉、くっきりと赤い口紅。

衣装の着物の白い衿元から花模様の半襟がのぞいている。

着物の両肩には緑の葉がつたい、両胸に本物の青い花がついている。

肩のあたりに紫色のダリア。

背中にはダリアや蘭、松もついている。

優雅な動きで両手を天に伸ばす。

帯は白地に菊小紋。朱色の帯締め。

袖部分はブラウスのような、手甲のような形になっていて、

肘から下に南天の実が並んでついている。

手首には青い花。

着物の裾は董色のぼかし。

草花が描かれている。

落語家の前方の左側には、芝に正座した男性ブランコの平井まさあき。

細おもて、黒ぶちのメガネ。

肩を左右交互に上げたり下げたり。

衣装はアオイヤマダと同じデザインで色違いの着物。

色は象牙色、下につけた袴は鼠色。

両手の平を下に向け、小さくばたつかせながら、立ち上がり、足を踏み出し、うつむいた姿勢で水を掻くような動き。

<落語家>

やがて浮かび上がるは義足のスプリンター、前川楓（まえがわかえで）。

自ら絵本を創り上げるほどの想像力。

<解説>

加勢鳥の前方に現れる前川楓（まえがわかえで）。

右足にスポーツ義足をつけている。

義足には膝下に強化プラスチックの板バネがついている。

形状は、足首部分からカーブしていて、つま先部分の先端が地面に触れている。

白にグレーのぼかし模様のタンクトップ、濃紺のハーフパンツ。
伸ばした右腕を左肩の方へ曲げ、左腕で押して、肩のストレッチ。
ぴょんぴょんと跳ねる。

<落語家>

その跳躍は競技場には収まらない！

<解説>

膝をたたいて調子を取る。

<落語家>

折しもパラパラ、オリパラパラ。

90年代にパラパラを踊っていた者たちはどこに行ったのか、

<解説>

落語家の目の前に、坊主頭で裸の男のシルエット。

大股開きで大地を踏んで腰を落とし、両手も大きく広げている。

<落語家>

オリオリオリオーパラパラパラパー、「WON' T BE LONG (ウオントビーロング)」の幻に誘われてぬっと現れたるは大駱駝艦(だいらくだかん) 村松卓矢(むらまつたくや)

<解説>

シルエットが3D映像に。全身真っ白に塗ったARの村松卓矢(むらまつたくや)が現れる。

<落語家>

麿赤兒(まろあかじ)に師事する天賦典式(てんぷてんしき)の代表格。

忘れ去られた「身振り・手振り」を採集・構築する男。

<解説>

村松卓矢(むらまつたくや)は目もとに黒い隈取り、白いふんどしに下駄ばき。

足を開いて立ち、足踏みをしながら、前で交差していた手を広げていく。

<落語家>

ズツとにらみを利かせたその先にいるは話の長い大会長、悪名高きぼったくり男爵なのか！

<解説>

フラメンコダンサーのように腕を交差させながら手先を動かしながら、回る。

<落語家>

次に登場したるはスケートボード選手の西矢栳（にしやもみじ）、大駱駝艦（だいらくだかん）をコースに見立て、ツルツルツルツル滑っていく、

<解説>

スケートボードに乗った中学生の女子、西矢栳（にしやもみじ）。白いヘルメット、オレンジ色のパーカー、モスグリーンのパンツ、黒いスニーカー。
村松卓矢（むらまつたくや）の前をすり抜け、村松と平井まさあきの間を滑って、村松と落語家の間を余裕の表情で滑っていく。

<落語家>

大駱駝艦（だいらくだかん）が怒りださないか心配だ！

<解説>

膝を大きく叩く落語家。
突如、3D映像のARが大勢現れる。
数人の太鼓奏者と加勢鳥。

<落語家>

リズムが重なり、価値が重なる。高まる次元はメタバース。
式典のボルテージはやがてクライマックスへ！

<解説>

落語家は激しく両手で膝を叩く。
6人の加勢鳥が落語家を真ん中にして、輪になって、踊る。
左手を腰にあて、右手を頭へ。
右足を地面から離して、1つ跳び、足を変えてケン、ケン。
手を、腰と頭にあて、くるりと回る。
水平にした両手の甲を顔の前で突き出ししながら、膝を曲げて一步踏み出してはリズムを刻み、一步踏み出してはリズムを刻む。
アオイヤマダと平井まさあきは横移動で落語家の前で顔を見合わせ、鏡のように同じ振り付けで踊る。

<落語家>

メタバース、嗚呼（ああ）！メタバース。人の数だけメタバース。暗黙知（あんもくち）、
嗚呼（ああ）！暗黙知（あんもくち）。

<解説>

カメラが一行の周りをパーンしていく。

太鼓奏者たちの後ろを通っていく。

4つ並べた縦置きの大鼓を叩く一人の奏者、

横置き、縦置きの大鼓、肩からかけた大鼓、大鼓。

それぞれの奏者が叩く。

<落語家>

まだ分からないことは、分からないまま記録する。未来につなぐ。未来へ託す。記憶の数だけメタバース。

<解説>

地面からにゅっと現れる巨大な村松の白塗りした手。

坊主頭も出てくる。てっぺんに高座ごと落語家をのせている。

その周りを踊る加勢鳥。

ヤマダと平井も踊り続けている。

<落語家>

拡張現実、記憶と記録を実空間に宿す。

あなたの未練をなぞらせて、あなたの未練を従えて。

<解説>

辺り一面に紙吹雪が舞う。

空に大きな太陽。

前川楓（まえがわかえで）が巨大な村松の水平にした手の甲から、

太陽の前を横切るように飛び出し、

同時に反対側から西矢柊（にしやもみじ）もスケートボードに乗ってジャンプ。

花びらが舞うような紙吹雪のなか、楓と柊が落語家の上を交差しながら飛び越える。

暗転。

スポットライトが当たり、高座に座った落語家が浮かび上がる。

<落語家>

有象無象のパフォーマンス。歓喜の歌を聞いていたのは、人の目には見えぬウィルスたちでございました。

「やい」

「なんだよ」

「メタメタメタメタ、うるさいね」

「ああ、Facebook（フェイスブック）もMeta（メタ）社になったからな。流行り言葉に興じてるだけだろ」

「なに悠長なこと言ってんだ、オレたちやウィルスだぞ。早く逃げる準備しねえと」

「逃げる？なんで逃げるんだよ」

「あんなに 換気（歓喜）されたんじゃ、たまらねえじゃねえか」

<解説>

深々とお辞儀する落語家。

カラフルなシルエットに変わり、スポットライト共に消える
緑の芝の競技場と誰もいない観客席だけになる。

クレジット

VIRTUAL NIPPON COLOSSEUM

AR 三兄弟

落語家 浦井のりひろ（男性ブランコ）

ダンサー 平井まさあき（男性ブランコ）

ダンサー アオイヤマダ

八百万の神 加勢鳥（やおよろずのかみ かせどり）

大駱駝艦 村松卓矢（だいらくだかん むらまつ・たくや）

鼓童 前田順康（こどう まえだ・まさやす）

パラアスリート 前川楓（まえがわ・かえで）

プロスケートボーダー 西矢椋（にしや・もみじ）

音楽 蓮沼執太（はすぬま・しゅうた）

[総合演出] [原案] 川田十夢（かわだ・とむ）

[開発] AR 三兄弟（えーあーる さんきょうだい）

[台本] ワクサカソウヘイ

[衣装] 飯嶋久美子

[メイクアップ] 富沢ノボル

[ドローン撮影] 久保木肇 岩城忠幸

[落語技術監修・衣装提供] 立川談吉（たてかわ・だんきち）

[制作] TASKO inc.

[バリアフリー制作] Palabra 株式会社

[バリアフリーコーディネート] THEATRE for ALL

[制作デスク] 株式会社 precog

[SPECIAL THANKS] MEW 株式会社グリオグループ 株式会社メルタ 町田 GION スタジアム

[プロデュース] 金森香（かなもり・かお）

文化庁委託事業「令和3年度戦略的芸術文化創造推進事業」

[主催] 文化庁、株式会社 precog